

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2001-044988
 (43)Date of publication of application : 16.02.2001

(51)Int.Cl.

H04L 9/32
G09C 1/00

(21)Application number : 11-221413

(71)Applicant : NIPPON TELEGR & TELEPH CORP
<NTT>

(22)Date of filing : 04.08.1999

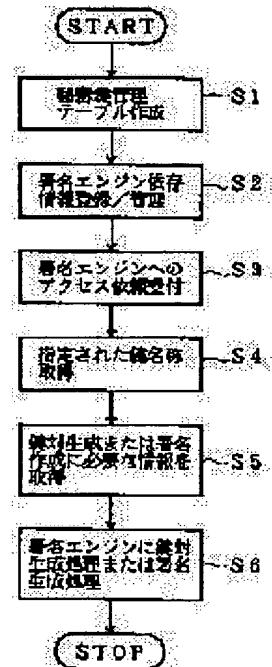
(72)Inventor : HASHIMOTO SHOICHI
NAKAHARA SHINICHI

(54) METHOD AND SYSTEM FOR ACCESSING TO DIFFERENT SIGNATURE ENGINES IN COMMON AND STORAGE MEDIUM STORED WITH ACCESS PROGRAM TO DIFFERENT SIGNATURE ENGIENS IN COMMON

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To discriminately use signature engines and multiple signature algorithm with ease and to easily add a new signature engine or new signature algorithm to an existent system in such a case without affecting a higher-order application.

SOLUTION: A secret key management table which manages pieces of secret key information is generated (S1). Signature engine dependency information depending upon a signature engine is registered and managed (S2). A request to access a signature engine is accepted (S3). A specified key name is obtained (S4). Information needed for signature generation or key couple generation corresponding to the key name is obtained from the secret key management table (S5). An arbitrary signature engine is requested to generate a key couple or signature (S6).



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 19.10.2001

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2001-44988

(P2001-44988A)

(43)公開日 平成13年2月16日 (2001.2.16)

(51)Int.Cl.⁷

H 04 L 9/32
G 09 C 1/00

識別記号

6 4 0

F I

H 04 L 9/00
G 09 C 1/00

テマコト⁸(参考)

6 7 5 D 5 J 1 0 4
6 4 0 B 9 A 0 0 1

審査請求 未請求 請求項の数12 O L (全 18 頁)

(21)出願番号

特願平11-221413

(22)出願日

平成11年8月4日 (1999.8.4)

(71)出願人 000004226

日本電信電話株式会社

東京都千代田区大手町二丁目3番1号

(72)発明者 橋本 正一

東京都千代田区大手町二丁目3番1号 日本電信電話株式会社内

(72)発明者 中原 健一

東京都千代田区大手町二丁目3番1号 日本電信電話株式会社内

(74)代理人 100070150

弁理士 伊東 忠彦

F ターム(参考) 5J104 AA09 LA03 LA06 MA02 NA02
NA12 NA20 NA27
9A001 EE03 JZ64 KZ58 LL03

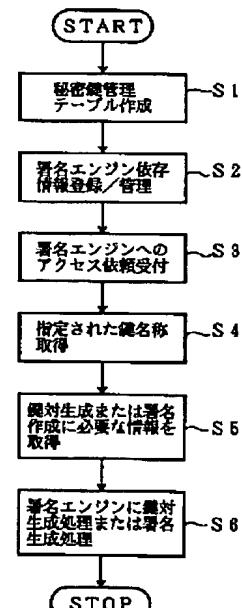
(54)【発明の名称】複数の異なる署名エンジンに対する共通的なアクセス方法及びシステム及び複数の異なる署名エンジンに対する共通的なアクセスプログラムを格納した記憶媒体

(57)【要約】

本発明の原理を説明するための図

【課題】複数の署名エンジン及び複数の署名アルゴリズムを容易に使い分けることを可能とし、また、既存のシステムへの新たな署名エンジンの追加や新たな署名アルゴリズムの追加の際にも、上位のアプリケーションに影響を与えることなく容易に追加を行うことが可能な複数の異なる署名エンジンに対する共通的なアクセス方法及びシステム及び複数の異なる署名エンジンに対する共通的なアクセスプログラムを格納した記憶媒体を提供する。

【解決手段】本発明は、複数の秘密鍵情報を管理する秘密鍵管理テーブルを作成し、署名エンジンに依存した署名エンジン依存情報を登録し、管理し、署名エンジンへのアクセス依頼を受け付け、指定された鍵名称を取得し、秘密鍵管理テーブルから鍵名称に対応する署名作成または、鍵対生成に必要な情報を取得し、任意の署名エンジンに対して鍵対生成処理または、署名作成処理を依頼する。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 平文または、平文のダイジェストに対して公開鍵暗号技術を用いた電子署名を作成するための電子署名エンジンを有する情報処理システムにおける署名エンジンを用いた電子署名の生成及び、秘密鍵/公開鍵の鍵対の生成を行う複数の異なる署名エンジンに対する共通的なアクセス方法において、

複数の秘密鍵情報を管理する秘密鍵管理テーブルを作成し、

署名エンジンに依存した署名エンジン依存情報を登録し、管理し、

前記署名エンジンへのアクセス依頼を受け付け、指定された鍵名称を取得し、

前記秘密鍵管理テーブルから前記鍵名称に対応する鍵対生成または、署名作成に必要な情報を取得し、

任意の署名エンジンに対して鍵対生成処理または、署名生成処理を依頼することを特徴とする複数の異なる署名エンジンに対する共通的なアクセス方法。

【請求項2】 前記秘密鍵管理テーブルから、前記鍵名称に対応する署名作成に必要な情報として、

前記鍵名称に対応付けられた署名エンジン種別、鍵格納場所、署名アルゴリズム、ハッシュアルゴリズムの署名生成に必要な情報を取得し、

取得した前記署名エンジン種別情報に対応するアクセスモジュール種別と入力データのハッシュ化の要否情報を前記署名エンジン依存情報から取得し、

ハッシュ化が必要な場合には、前記秘密管理テーブルから取得したハッシュアルゴリズムによる署名対象データのハッシュデータ及び鍵格納場所、及び署名アルゴリズム情報を、ハッシュ化が不要な場合には、署名対象データ、鍵格納場所、及び署名アルゴリズム及びハッシュアルゴリズム情報を、選択されたアクセスモジュールを介して前記署名エンジンへ送付し、署名生成依頼を行う請求項1記載の複数の異なる署名エンジンに対する共通的なアクセス方法。

【請求項3】 前記鍵対を生成する際に、

利用者が指定した鍵名称を取得し、

前記秘密鍵管理テーブルから前記鍵名称に対応付けられた署名エンジン種別、鍵格納場所、署名アルゴリズム、鍵パラメータの鍵対生成に必要な情報を取得し、

取得した前記署名エンジン種別に対応するアクセスモジュール種別情報を前記署名エンジン依存情報から取得し、

前記鍵格納場所、前記署名アルゴリズム、及び前記鍵パラメータを選択されたアクセスモジュールを介して署名エンジンへ送付し、鍵対生成を依頼し、

前記署名エンジンにおいて、依頼された鍵対を生成する請求項1記載の複数の異なる署名エンジンに対する共通的なアクセス方法。

【請求項4】 前記利用者が指定する前記鍵名称に対し

50 と、

2

て、該鍵名称に対応する秘密鍵が格納されている署名エンジン種別と、鍵格納場所と、秘密鍵が適用される署名アルゴリズムと、鍵長を含む鍵パラメータ情報と、署名生成時に署名対象データをハッシュ化するためのハッシュアルゴリズム種別とを、前記秘密鍵管理テーブルに保持する請求項2または、3記載の複数の異なる署名エンジンに対する共通的なアクセス方法。

【請求項5】 平文または、平文のダイジェストに対して公開鍵暗号技術を用いた電子署名を作成するための電子署名エンジンを有する情報処理システムにおける署名エンジンを用いた電子署名の生成及び、秘密鍵/公開鍵の鍵対の生成を行う複数の異なる署名エンジンに対する共通的なアクセスシステムであって、

複数の秘密鍵の管理や複数の電子署名アルゴリズムの利用が可能な任意の数の電子署名エンジンと、

複数の秘密鍵情報を管理する秘密鍵管理テーブルを作成する秘密鍵管理テーブル作成手段と、

署名エンジンに依存した情報である署名エンジン依存情報を登録し、管理する署名エンジン依存情報登録手段と、

前記署名エンジンへのアクセス依頼を受け付け、指定された鍵名称を取得する署名エンジンアクセス依頼受付手段と、

前記秘密鍵管理テーブルから前記鍵名称に対応する秘密鍵情報及び、署名作成に必要な情報を取得する秘密鍵情報参照手段と、

任意の署名エンジンに対して鍵対生成処理または、署名生成処理を依頼する署名エンジンアクセス制御手段とを有することを特徴とする複数の異なる署名エンジンに対する共通的なアクセスシステム。

【請求項6】 前記秘密鍵情報参照手段は、前記秘密鍵管理テーブルから、前記鍵名称に対応する署名作成に必要な情報として、該鍵名称に対応付けられた署名エンジン種別、鍵格納場所、署名アルゴリズム、ハッシュアルゴリズムの署名生成に必要な情報を取得する手段を有し、前記署名エンジンアクセス制御手段は、取得した前記署名エンジン種別情報に対応するアクセスモジュール種別と入力データのハッシュ化の要否情報を署名エンジン依存情報から取得する手段と、

40 ハッシュ化が必要な場合には、前記秘密管理テーブルから取得したハッシュアルゴリズムによる署名対象データのハッシュデータ及び鍵格納場所、及び署名アルゴリズム情報を、ハッシュ化が不要な場合には、署名対象データ、鍵格納場所、及び署名アルゴリズム及びハッシュアルゴリズム情報を、選択されたアクセスモジュールを介して前記署名エンジンへ送付し、署名生成依頼を行う手段を有する請求項5記載の複数の異なる署名エンジンに対する共通的なアクセスシステム。

【請求項7】 利用者が指定した鍵名称を取得する手段

前記秘密鍵管理テーブルから前記鍵名称に対応付けられた署名エンジン種別、鍵格納場所、署名アルゴリズム、鍵パラメータの鍵対生成に必要な情報を取得する手段と、

取得した前記署名エンジン種別に対応するアクセスモジュール種別情報を前記署名エンジン依存情報から取得する手段と、

前記鍵格納場所、前記署名アルゴリズム、及び前記鍵パラメータを選択されたアクセスモジュールを介して署名エンジンへ送付し、鍵対生成を依頼する手段とを有する鍵対生成依頼手段を更に有し、

前記署名エンジンにおいて、依頼された鍵対を生成する請求項5記載の複数の異なる署名エンジンに対する共通的なアクセスシステム。

【請求項8】 前記秘密鍵管理テーブルは、前記利用者が指定する前記鍵名称に対して、該鍵名称に対応する秘密鍵が格納されている署名エンジン種別と、鍵格納場所と、秘密鍵が適用される署名アルゴリズムと、鍵長を含む鍵パラメータ情報と、署名生成時に署名対象データをハッシュ化するためのハッシュアルゴリズム種別とを保持する請求項6または、7記載の複数の異なる署名エンジンに対する共通的なアクセスシステム。

【請求項9】 平文または、平文のダイジェストに対して公開鍵暗号技術を用いた電子署名を作成するための電子署名エンジンを有する情報処理システムにおける署名エンジンを用いた電子署名の生成及び、秘密鍵／公開鍵の鍵対の生成を行う複数の異なる署名エンジンに対する共通的なアクセスプログラムを格納した記憶媒体であつて、

複数の秘密鍵情報を管理する秘密鍵管理テーブルを作成する秘密鍵管理テーブル作成プロセスと、

複数の秘密鍵の管理や複数の電子署名アルゴリズムの利用が可能な任意の数の電子署名エンジンに依存した情報である署名エンジン依存情報を登録し、管理する署名エンジン依存情報登録プロセスと、

前記署名エンジンへのアクセス依頼を受け付け、指定された鍵名称を取得する署名エンジンアクセス依頼受付プロセスと、

前記秘密鍵管理テーブルから前記鍵名称に対応する秘密鍵情報及び、署名作成に必要な情報を取得する秘密鍵情報参照プロセスと、

任意の署名エンジンに対して鍵対生成処理または、署名生成処理を依頼する署名エンジンアクセス制御プロセスとを有することを特徴とする複数の異なる署名エンジンに対する共通的なアクセスプログラムを格納した記憶媒体。

【請求項10】 前記秘密鍵情報参照プロセスは、前記秘密鍵管理テーブルから、前記鍵名称に対応する署名作成に必要な情報として、該鍵名称に対応付けられた署名エンジン種別、鍵格納場所、署名アルゴリズム、ハ

ッシュアルゴリズムの署名生成に必要な情報を取得するプロセスを有し、

前記署名エンジンアクセス制御プロセスは、取得した前記署名エンジン種別情報に対応するアクセスモジュール種別と入力データのハッシュ化の要否情報を署名エンジン依存情報から取得するプロセスと、ハッシュ化が必要な場合には、前記秘密鍵管理テーブルから取得したハッシュアルゴリズムによる署名対象データのハッシュデータ及び鍵格納場所、及び署名アルゴリズム情報を、ハッシュ化が不要な場合には、署名対象データ、鍵格納場所、及び署名アルゴリズム及びハッシュアルゴリズム情報を、選択されたアクセスモジュールを介して前記署名エンジンへ送付し、署名生成依頼を行うプロセスを有する請求項9記載の複数の異なる署名エンジンに対する共通的なアクセスプログラムを格納した記憶媒体。

【請求項11】 利用者が指定した鍵名称を取得するプロセスと、

前記秘密鍵管理テーブルから前記鍵名称に対応付けられた署名エンジン種別、鍵格納場所、署名アルゴリズム、鍵パラメータの鍵対生成に必要な情報を取得するプロセスと、

取得した前記署名エンジン種別に対応するアクセスモジュール種別情報を前記署名エンジン依存情報から取得するプロセスと、

前記鍵格納場所、前記署名アルゴリズム、及び前記鍵パラメータを選択されたアクセスモジュールを介して署名エンジンへ送付し、鍵対生成を依頼するプロセスとを有する鍵対生成依頼プロセスを更に有する請求項9記載の複数の異なる署名エンジンに対する共通的なアクセスプログラムを格納した記憶媒体。

【請求項12】 前記利用者が指定する前記鍵名称に対して、該鍵名称に対応する秘密鍵が格納されている署名エンジン種別と、鍵格納場所と、秘密鍵が適用される署名アルゴリズムと、鍵長を含む鍵パラメータ情報と、署名生成時に署名対象データをハッシュ化するためのハッシュアルゴリズム種別とを保持する前記秘密鍵管理テーブルを利用するプロセスを有する請求項10または、1記載の複数の異なる署名エンジンに対する共通的なアクセスプログラムを格納した記憶媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、複数の異なる署名エンジンに対する共通的なアクセス方法及びシステム及び複数の異なる署名エンジンに対する共通的なアクセスプログラムを格納した記憶媒体に係り、特に、平文または、平文のダイジェストに対して公開鍵暗号技術を用いた電子署名を作成するための電子署名エンジンを有する情報処理システムにおける、署名エンジンを用いた電子署名の生成及び、秘密鍵／公開鍵の鍵対の生成を行う複

数の異なる署名エンジンに対する共通的なアクセス方法及びシステム及び複数の異なる署名エンジンに対する共通的なアクセスプログラムを格納した記憶媒体に関する。

【0002】

【従来の技術】最初に電子署名生成の流れと署名エンジンについて説明する。公開鍵暗号方式を用いた電子署名は、通常、図11に示すように、まず、署名したい対象データをハッシュ関数に入れてハッシュデータに変換し、このハッシュデータに対して秘密鍵を用いた署名生成処理を行うことにより生成される。ハッシュ関数には、SHA-1やMD5などのアルゴリズムが、また、電子署名アルゴリズムには、公開鍵暗号方式であるESIGNやRSAなどがよく知られている。ここで、電子署名に用いる秘密鍵は、署名者を識別するための情報として非常に重要な情報であるため、電子署名を利用するシステムでは、秘密鍵の管理及び電子署名の生成を安全に行うために、これらに必要な機能群をシステムと独立した専用装置として用意する場合が多い。この専用装置を一般に署名エンジンと呼んでおり、その実装方法は装置毎に様々である。

【0003】例えば、図11に示すように、ハッシュ処理や署名生成処理で複数のアルゴリズムを利用できるものや、複数の秘密鍵を保持及び利用できるもの、あるいは、図11における署名エンジンBのようにハッシュ処理部が無く、ハッシュ化されたデータが入力されることを前提とした装置も存在する。次に、署名エンジンを用いた電子署名の生成について説明する。

【0004】一般に、複数の署名アルゴリズムの利用や複数の署名エンジンの利用を必要とするシステムにおいて電子署名を生成する際には、図12に示すような流れで署名エンジンへの署名を生成する。

ステップ10) まず、署名生成を行いたいアプリケーションにおいて、署名生成に必要な情報として、署名対象となるデータ、署名生成に用いる秘密鍵、ハッシュアルゴリズム、署名アルゴリズムに何を用いるかを決定する。

【0005】ステップ11) 署名生成に用いる秘密鍵が格納されている署名エンジンを選択する。

ステップ12) 選択された署名エンジンに対して、署名対象データのハッシュ化が必要か否を判断し、必要な場合にはステップ13に移行し、不要な場合にはステップ14に移行する。

【0006】ステップ13) 必要な場合には入力データのハッシュ化処理を行う。

ステップ14) ステップ11で選択された署名エンジンに依存した署名生成依頼方式に従って、ステップ10で決定された情報を元にハッシュアルゴリズム、署名アルゴリズム、秘密鍵の格納先の情報を署名エンジンへ指定するための署名生成依頼情報を生成する。ステップ1

3を行った場合には、ハッシュアルゴリズムの指定は不要である。

【0007】ステップ15) ステップ14で生成した情報と署名対象データ、あるいは、署名対象データのハッシュ値をアクセスモジュールを介して署名エンジンへ送付し、署名エンジンから署名生成結果である署名データを受け取る。ここでアクセスモジュールとは、例えば、署名エンジンを制御するためのドライバソフトのようなものである。

10 【0008】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、従来の署名エンジンを用いた署名生成処理では、署名生成を依頼する上位のアプリケーションが、署名生成に用いる秘密鍵が格納されている署名エンジン及びその格納場所の判別や、その秘密鍵が署名アルゴリズムに適用可能であることの確認、入力データである署名対象データのハッシュ化の要否判断などを行い、署名エンジンの種別に応じた署名生成処理の振り分けを行う必要がある。従つて、用途に応じて複数の署名アルゴリズムや複数の秘密鍵、あるいは、複数の署名エンジンの使い分けを行うシステムにおいては、署名エンジンに対する電子署名の生成依頼処理が煩雑となる。

20 【0009】本発明は、上記の点に鑑みなされたもので、複数の署名エンジン及び複数の署名アルゴリズムを容易に使い分けることを可能とし、また、既存のシステムへの新たな署名エンジンの追加や新たな署名アルゴリズムの追加の際にも、上位のアプリケーションに影響を与えることなく容易に追加を行うことが可能な複数の異なる署名エンジンに対する共通的なアクセス方法及びシステム及び複数の異なる署名エンジンに対する共通的なアクセスプログラムを格納した記憶媒体を提供することを目的とする。

【0010】

【課題を解決するための手段】図1は、本発明の原理を説明するための図である。本発明(請求項1)は、平文または、平文のダイジェストに対して公開鍵暗号技術を用いた電子署名を作成するための電子署名エンジンを有する情報処理システムにおける署名エンジンを用いた電子署名の生成及び、秘密鍵/公開鍵の鍵対の生成を行う複数の異なる署名エンジンに対する共通的なアクセス方法において、複数の秘密鍵情報を管理する秘密鍵管理テーブルを作成し(ステップ1)、署名エンジンに依存した署名エンジン依存情報を登録し、管理し(ステップ2)、署名エンジンへのアクセス依頼を受け付け(ステップ3)、指定された鍵名称を取得し(ステップ4)、秘密鍵管理テーブルから鍵名称に対応する鍵対生成または、署名作成に必要な情報を取得し(ステップ5)、任意の署名エンジンに対して鍵対生成処理または、署名生成処理を依頼する(ステップ6)。

40 【0011】本発明(請求項2)は、秘密鍵管理テーブ

ルから、鍵名称に対応する署名作成に必要な情報として、鍵名称に対応付けられた署名エンジン種別、鍵格納場所、署名アルゴリズム、ハッシュアルゴリズムの署名生成に必要な情報を取得し、取得した署名エンジン種別情報に対応するアクセスモジュール種別と入力データのハッシュ化の要否情報を署名エンジン依存情報から取得し、ハッシュ化が必要な場合には、秘密管理テーブルから取得したハッシュアルゴリズムによる署名対象データのハッシュデータ及び鍵格納場所、及び署名アルゴリズム情報を、ハッシュ化が不要な場合には、署名対象データ、鍵格納場所、及び署名アルゴリズム及びハッシュアルゴリズム情報を、選択されたアクセスモジュールを介して署名エンジンへ送付し、署名生成依頼を行う。

【0012】本発明（請求項3）は、鍵対を生成する際に、利用者が指定した鍵名称を取得し、秘密鍵管理テーブルから鍵名称に対応付けられた署名エンジン種別、鍵格納場所、署名アルゴリズム、鍵パラメータの鍵対生成に必要な情報を取得し、取得した署名エンジン種別に対応するアクセスモジュール種別情報を署名エンジン依存情報から取得し、鍵格納場所、署名アルゴリズム、及び鍵パラメータを選択されたアクセスモジュールを介して署名エンジンへ送付し、鍵対生成を依頼し、署名エンジンにおいて、依頼された鍵対を生成する。

【0013】本発明（請求項4）は、利用者が指定する鍵名称に対して、該鍵名称に対応する秘密鍵が格納されている署名エンジン種別と、鍵格納場所と、秘密鍵が適用される署名アルゴリズムと、鍵長を含む鍵パラメータ情報と、署名生成時に署名対象データをハッシュ化するためのハッシュアルゴリズム種別とを秘密鍵管理テーブルに保持する。

【0014】図2は、本発明の原理構成図である。本発明（請求項5）は、平文または、平文のダイジェストに対して公開鍵暗号技術を用いた電子署名を作成するための電子署名エンジンを有する情報処理システムにおける署名エンジンを用いた電子署名の生成及び、秘密鍵／公開鍵の鍵対の生成を行う複数の異なる署名エンジンに対する共通的なアクセスシステムであって、複数の秘密鍵の管理や複数の電子署名アルゴリズムの利用が可能な任意の数の電子署名エンジン200と、複数の秘密鍵情報を管理する秘密鍵管理テーブル150を作成する秘密鍵管理テーブル作成手段110と、署名エンジンに依存した情報である署名エンジン依存情報を登録し、管理する署名エンジン依存情報登録手段130と、署名エンジン200へのアクセス依頼を受け付け、指定された鍵名称を取得する署名エンジンアクセス依頼受付手段120と、秘密鍵管理テーブル150から鍵名称に対応する秘密鍵情報及び、署名作成に必要な情報を取得する秘密鍵情報参照手段140と、任意の署名エンジンに対して鍵対生成処理または、署名生成処理を依頼する署名エンジンアクセス制御手段160とを有する。

【0015】本発明（請求項10）は、秘密鍵情報参照手段140において、秘密鍵管理テーブル150から、鍵名称に対応する署名作成に必要な情報として、該鍵名称に対応付けられた署名エンジン種別、鍵格納場所、署名アルゴリズム、ハッシュアルゴリズムの署名生成に必要な情報を取得する手段を有し、署名エンジンアクセス制御手段160において、取得した署名エンジン種別情報に対応するアクセスモジュール種別と入力データのハッシュ化の要否情報を署名エンジン依存情報から取得する手段と、ハッシュ化が必要な場合には、秘密管理テーブル150から取得したハッシュアルゴリズムによる署名対象データのハッシュデータ及び鍵格納場所、及び署名アルゴリズム情報を、ハッシュ化が不要な場合には、署名対象データ、鍵格納場所、及び署名アルゴリズム及びハッシュアルゴリズム情報を、選択されたアクセスモジュールを介して署名エンジンへ送付し、署名生成依頼を行う手段を有する。

【0016】本発明（請求項11）は、利用者が指定した鍵名称を取得する手段と、秘密鍵管理テーブル150から鍵名称に対応付けられた署名エンジン種別、鍵格納場所、署名アルゴリズム、鍵パラメータの鍵対生成に必要な情報を取得する手段と、取得した署名エンジン種別に対応するアクセスモジュール種別情報を署名エンジン依存情報から取得する手段と、鍵格納場所、署名アルゴリズム、及び鍵パラメータを選択されたアクセスモジュールを介して署名エンジンへ送付し、鍵対生成を依頼する手段とを有する鍵対生成依頼手段を更に有し、署名エンジンにおいて、依頼された鍵対を生成する。

【0017】本発明（請求項8）は、秘密鍵管理テーブル150において、利用者が指定する鍵名称に対して、該鍵名称に対応する秘密鍵が格納されている署名エンジン種別と、鍵格納場所と、秘密鍵が適用される署名アルゴリズムと、鍵長を含む鍵パラメータ情報と、署名生成時に署名対象データをハッシュ化するためのハッシュアルゴリズム種別とを保持する。

【0018】本発明（請求項9）は、平文または、平文のダイジェストに対して公開鍵暗号技術を用いた電子署名を作成するための電子署名エンジンを有する情報処理システムにおける署名エンジンを用いた電子署名の生成及び、秘密鍵／公開鍵の鍵対の生成を行う複数の異なる署名エンジンに対する共通的なアクセスプログラムを格納した記憶媒体であって、複数の秘密鍵情報を管理する秘密鍵管理テーブルを作成する秘密鍵管理テーブル作成プロセスと、複数の秘密鍵の管理や複数の電子署名アルゴリズムの利用が可能な任意の数の電子署名エンジンに依存した情報である署名エンジン依存情報を登録し、管理する署名エンジン依存情報登録プロセスと、署名エンジンへのアクセス依頼を受け付け、指定された鍵名称を取得する署名エンジンアクセス依頼受付プロセスと、秘密鍵管理テーブルから鍵名称に対応する秘密鍵情報及

び、署名作成に必要な情報を取得する秘密鍵情報参照プロセスと、任意の署名エンジンに対して鍵対生成処理または、署名生成処理を依頼する署名エンジンアクセス制御プロセスとを有する。

【0019】本発明（請求項10）は、秘密鍵情報参照プロセスにおいて、秘密鍵管理テーブルから、鍵名称に対応する署名作成に必要な情報として、該鍵名称に対応付けられた署名エンジン種別、鍵格納場所、署名アルゴリズム、ハッシュアルゴリズムの署名生成に必要な情報を取得するプロセスを有し、署名エンジンアクセス制御プロセスにおいて、取得した署名エンジン種別情報に対応するアクセスモジュール種別と入力データのハッシュ化の要否情報を署名エンジン依存情報から取得するプロセスと、ハッシュ化が必要な場合には、秘密管理テーブルから取得したハッシュアルゴリズムによる署名対象データのハッシュデータ及び鍵格納場所、及び署名アルゴリズム情報を、ハッシュ化が不要な場合には、署名対象データ、鍵格納場所、及び署名アルゴリズム及びハッシュアルゴリズム情報を、選択されたアクセスモジュールを介して署名エンジンへ送付し、署名生成依頼を行うプロセスを有する。

【0020】本発明（請求項11）は、利用者が指定した鍵名称を取得するプロセスと、秘密鍵管理テーブルから鍵名称に対応付けられた署名エンジン種別、鍵格納場所、署名アルゴリズム、鍵パラメータの鍵対生成に必要な情報を取得するプロセスと、取得した署名エンジン種別に対応するアクセスモジュール種別情報を署名エンジン依存情報から取得するプロセスと、鍵格納場所、署名アルゴリズム、及び鍵パラメータを選択されたアクセスモジュールを介して署名エンジンへ送付し、鍵対生成を依頼するプロセスとを有する鍵対生成依頼プロセスを更に有する。

【0021】本発明（請求項12）は、利用者が指定する鍵名称に対して、該鍵名称に対応する秘密鍵が格納されている署名エンジン種別と、鍵格納場所と、秘密鍵が適用される署名アルゴリズムと、鍵長を含む鍵パラメータ情報と、署名生成時に署名対象データをハッシュ化するためのハッシュアルゴリズム種別とを保持する秘密鍵管理テーブルを利用するプロセスを有する。

【0022】上記のように、本発明において、初期設定時における秘密鍵管理テーブルの設定により、上位アプリケーションは、署名生成に用いる秘密鍵の鍵名称のみを指定するだけで、任意の署名エンジンに対する署名生成や鍵対生成の依頼に必要な情報を決定可能になる。また、署名エンジン依存情報の登録を行うことにより、署名エンジンに依存した情報を秘密鍵制御部内に隠蔽し、上位アプリケーションが署名エンジンの種別を意識せずに署名エンジンへアクセスすることが可能となる。

【0023】また、鍵対生成処理により、秘密鍵の格納先や署名アルゴリズム等に関わらず、システムが利用す

るすべての秘密鍵の情報を一元的に管理して、各秘密鍵の生成やその秘密鍵を用いた署名生成に必要な情報を、鍵名称をキー情報として取得することが可能となる。また、署名生成に用いる秘密鍵の生成の際にも、上位アプリケーションが生成したい秘密鍵の鍵名称のみを指定するだけで、任意の署名エンジンに対する鍵対生成依頼が可能になる。

【0024】また、署名生成処理により、上位のアプリケーションが署名生成処理を署名エンジンに依頼する際に、秘密鍵の格納場所や、署名アルゴリズム、利用する署名エンジンの種別及びその署名エンジンに応じた処理依頼方法などを意識することなく、鍵名称及び署名対象データを指定するだけで署名エンジンへの署名生成依頼が可能となる。

【0025】

【発明の実施の形態】図3は、本発明におけるアクセスシステム構成を示す。同図に示すように、複数の秘密鍵の管理や複数の署名エンジンへのアクセス制御を一元的に行うための秘密鍵制御部100を設け、署名生成を依頼する上位アプリケーション400が、秘密鍵の格納先や、格納先にある秘密鍵の署名アルゴリズムへの適用性や、入力データのハッシュ化の要否判断などを意識することなく、この秘密鍵制御部100に対して署名生成に用いる秘密鍵名称を指定するだけで任意の署名エンジンに対する署名生成依頼が可能となる。

【0026】秘密鍵制御部100は、上位アプリケーション400から署名エンジン（A200または、B300）へのアクセス依頼を受け付けるための署名エンジンアクセス依頼受付部120と、システムが利用する複数の秘密鍵の各々について、格納先や署名アルゴリズムなどの署名生成に必要な情報を管理するための秘密鍵管理テーブル150、及びその生成を行う秘密鍵管理テーブル作成部110、この秘密鍵管理テーブル150から鍵名称をキー情報として対応する署名生成に必要な情報を取得するための秘密鍵情報参照部140、署名エンジンに依存した情報を予め登録しておくための署名エンジン依存情報登録部130と、秘密鍵が格納されている署名エンジンへアクセスモジュール170、180を介して実際の処理依頼を行うための署名エンジンアクセス制御部160から構成される。

【0027】次に、本発明の動作を説明する。最初に、署名生成を実現するために必要な事前処理として、秘密鍵情報を一元管理するための秘密鍵管理テーブル150の設定及び署名エンジンに依存した情報の設定と、署名生成に用いる秘密鍵を用意するための鍵対生成処理について説明する。

【0028】1. システム初期設定時

図4は、本発明における鍵対生成時の処理の流れを説明するための図であり、図5は、本発明の秘密鍵管理テーブルの例を示す。最初にシステム初期設定時における動

作を説明する。

(1) 秘密鍵管理テーブル150の設定(ステップ101)：システム初期設定の際に、図5に示すように、上位アプリケーション400が利用する複数の秘密鍵の各々に対して、鍵名称、鍵名称に対応する秘密鍵が格納されている署名エンジン種別及びその中における格納場所を示す鍵格納場所情報、適用する署名アルゴリズム情報、署名生成処理の前に署名対象データをハッシュ化するためのハッシュアルゴリズム情報、鍵長などの鍵対生成に必要な鍵パラメータ情報を管理する秘密鍵管理テーブル150を、秘密鍵管理テーブル作成部110を用いて作成する。

【0029】ここで、署名エンジン種別とは、署名エンジンの種類を区別するための識別子のことであり、署名エンジンとこの識別子との対応はシステムとして固定的に保持する情報である。これらの情報は、署名エンジンに対する鍵対生成や署名生成を依頼する際に必要な情報であり、このテーブルに上位アプリケーション400が利用するすべての秘密鍵に関する情報を設定することにより、上位アプリケーション400は、署名生成に用いる秘密鍵の鍵名称のみを指定するだけで、任意の署名エンジンに対する署名生成や鍵対生成の依頼に必要な情報を決定可能になる。

【0030】(2) 署名エンジン依存情報の登録(ステップ102)：システムの初期設定の際に、システムが利用する各署名エンジンに依存する情報として、署名生成を依頼する際の入力データとして署名対象データをハッシュ化する必要があるか否かの情報と、署名エンジンへアクセスするためのアクセスモジュール種別を秘密鍵制御部100内に予め登録しておく。これにより、署名エンジンに依存した情報を秘密鍵制御部100内に隠蔽し、上位アプリケーション400が署名エンジンの種別を意識せずに署名エンジンへアクセスすることが可能となる。ここで、アクセスモジュール種別とは、アクセスモジュールの種別を区別するための識別子のことであり、アクセスモジュールと識別子の対応は、システムとして固定的に保持される情報である。

【0031】2. 鍵生成時

次に、鍵対生成時の動作について説明する。

(1) 上位アプリケーション400による鍵対生成依頼(ステップ103)：上記システム初期時の設定が終了後、上位アプリケーション400は署名生成に用いる鍵対の生成処理を秘密鍵制御部150に対して依頼する。その際、上位アプリケーション400は、どの鍵対を生成するのかを先に作成した秘密鍵管理テーブル150内に登録した秘密鍵の中から鍵名称を用いて指定する。

【0032】(2) 署名エンジンアクセス依頼受付処理(ステップ104)：上位アプリケーション400から署名エンジンに対する鍵対生成の依頼を、署名エンジ

ンアクセス依頼受付部120を用いて受理し、生成依頼対象である鍵名称情報を取得する。

(3) 秘密鍵情報参照処理(ステップ105)：上位アプリケーション400から指定された鍵名称に対応する鍵対の生成に必要な情報を取得するため、秘密鍵情報参照部140を用いて秘密鍵管理テーブル150にアクセスし、(2)で取得した鍵名称をキー情報として対応する署名エンジン種別、鍵格納場所、署名アルゴリズム、鍵パラメータ情報を取得する。これにより、上位アプリケーション400からは鍵名称のみが指定されるだけで、署名エンジンへの鍵対生成の依頼に必要な情報を用意することが可能となる。

【0033】(4) 署名エンジンへの鍵対生成依頼処理(ステップ106)：

(3)で取得した情報をもとに署名エンジンへ鍵対生成処理を依頼するため、署名エンジンアクセス制御部100を用いて、(3)で取得した署名エンジン種別に対応する署名エンジンへのアクセスモジュール種別を署名エンジン依存情報から取得し、そのアクセスモジュールを介して、(3)で取得した鍵格納場所、署名アルゴリズム、鍵パラメータ情報を用いて署名エンジンに対して鍵対生成を依頼する。この処理により、上位アプリケーション400が指定した鍵名称に対応する秘密鍵が生成・格納されるべき署名エンジンへのアクセスモジュールが自動的に選択され、各署名エンジンにおける鍵対生成依頼方法に従った鍵対生成依頼を実行することが可能となる。

【0034】(5) 鍵対生成処理(ステップ107)：

(4)の依頼に基づき、指定された鍵パラメータ及び署名アルゴリズムに対応する鍵対生成処理が署名エンジン内で行われ、指定された格納場所へ秘密鍵が格納される。以上の処理及び機能を用いることにより、秘密鍵の格納先や署名アルゴリズム等に関わらず、システムが利用するすべての秘密鍵の情報を一元的に管理して、各秘密鍵の生成やその秘密鍵を用いた署名生成に必要な情報を、鍵名称をキー情報として取得することが可能となる。また、本発明により、署名生成に用いる秘密鍵の生成の際にも、上位アプリケーション400が生成したい秘密鍵の鍵名称のみを指定するだけで、任意の署名エンジンに対する鍵対生成依頼が可能になる。

【0035】3. 署名生成処理時次に、上記で生成された秘密鍵を用いた署名生成処理の流れについて説明する。図6は、本発明における署名生成処理の流れを説明するための図である。最初に、署名生成処理時の動作について説明する。

(1) 上位アプリケーション400による署名生成依頼(ステップ201)：上位アプリケーション400は、署名生成の必要が発生した際に、秘密鍵制御部150に対して署名対象となるデータと署名に用いる鍵名称を指定して署名生成依頼を行う。

13

【0036】(2) 署名生成依頼受付処理(ステップ202)：上位アプリケーション400から署名エンジンに対する署名生成の依頼を、署名エンジンアクセス依頼受付部120を用いて受理し、署名対象となるデータと署名に用いる秘密鍵の鍵名称情報を取得する。

(3) 秘密鍵情報参照処理(ステップ203)：上位アプリケーション400から指定された鍵名称に対応する秘密鍵を用いた署名生成に必要な情報を取得するため、秘密鍵情報参照部140を用いて秘密鍵管理テーブル150にアクセスし、(2)で取得した鍵名称をキー情報として対応する署名エンジン種別、鍵格納場所、署名アルゴリズム、ハッシュアルゴリズム情報を取得する。これにより、上位アプリケーション400からは鍵名称のみが指定されるだけで、署名エンジンへの署名生成の依頼に必要な情報を用意することが可能になる。

【0037】(4) 署名エンジンへの署名生成依頼処理(ステップ204)：(3)で取得した情報をもとに署名エンジンへの署名生成処理を依頼するため、署名エンジンアクセス制御部160を用いて、(3)で取得した署名エンジン種別に対応する署名エンジンへのアクセスモジュール種別及び署名対象データのハッシュ化要否情報を署名エンジン依存情報から取得する。そして、選択された署名アクセスモジュールに対して、署名対象のデータのハッシュ化が必要であった場合には、(3)で取得したハッシュアルゴリズムにより入力データである署名対象データをハッシュ化後、このハッシュデータと鍵格納場所と署名アルゴリズムの情報を入力として署名エンジンへの署名生成依頼を行い、署名対象データのハッシュ化が不要であった場合には、署名対象データと、(3)で取得した鍵格納場所及び署名アルゴリズム及びハッシュアルゴリズム情報を入力として署名エンジンへ署名生成依頼を行う。この処理により、上位アプリケーション400が指定した鍵名称に対応する秘密鍵が格納されている署名エンジンへのアクセスモジュールが自動的に選択され、入力データのハッシュ化の要否など各署名エンジンに対する署名生成依頼方法に従った署名生成依頼を実行することが可能となる。

【0038】(5) 署名生成処理(ステップ205)：署名エンジンにおいて、(4)の依頼に基づき、指定された鍵格納場所にある秘密鍵を用いて署名生成処理が行われ、署名データが返却される。以上の処理及び機能を用いることにより、上位アプリケーション400が署名生成処理を署名エンジンに依頼する際に、秘密鍵の格納場所や、署名アルゴリズム、利用する署名エンジンの種別及びその署名エンジンに応じた処理依頼方法などを意識することなく、鍵名称及び署名対象データを指定するだけで署名エンジンへの署名生成依頼が可能となる。

【0039】

【実施例】以下、図面と共に本発明の実施例を説明す

14

る。本実施例では、署名エンジンを用いた署名生成処理の流れを図7～図10を用いて説明する。図7は、本発明の一実施例の電子署名生成の事前処理を説明するための図であり、図8は、本発明の一実施例の秘密鍵管理テーブルの設定例を示す。

【0040】1. システム処刑設定時

(1) 秘密鍵管理テーブルの設定(ステップ301)

1)：システム初期設定の際に、図8の例に示されるような秘密鍵管理テーブル150を作成し、その中にシステムで利用されるすべての秘密鍵について、署名エンジンへの鍵対生成や署名生成の依頼に必要な情報を登録する。このようなテーブルの作成は、例えば、ファイル編集機能を用いて実現可能である。また、図8は、例えば、「KeyA」という鍵名称を持つ秘密鍵が、「署名エンジンA」200の「#3」という場所に格納され、適用する署名アルゴリズムは「ESIGN」であり、署名生成の際の署名対象データのハッシュ化アルゴリズムには「SHA-1」を用い、鍵長が「120バイト」であるといった情報が登録されている。これらの情報は、20 システム初期時にシステムの方針として予め決定しておく。

【0041】(2) 署名エンジン依存情報の登録(ステップ302)：図9は、本発明の一実施例の署名エンジン依存情報の設定例を示す。システム初期設定の際に、図9の例に示されるような署名エンジン依存情報テーブル161を署名エンジンアクセス制御部160に作成し、その中にシステムが利用する署名エンジンに対して、署名エンジンに依存する情報である入力データのハッシュ化の要否情報と、署名エンジンへアクセスするためのアクセスモジュール種別情報を登録する。このようなテーブルの作成は、例えば、ファイル編集機能を用いて実現可能である。また、図9は、例えば、「署名エンジンA」200は、入力データのハッシュ化の要否は「否」であり、署名エンジンにアクセスする際に使用するアクセスモジュールは、「アクセスモジュールA」を使用することを意味している。これらの情報は、システム初期時に予め使用する署名エンジンの仕様を調査して取得しておく。

【0042】2. 鍵対生成時

(1) 上位アプリケーション400による鍵対生成依頼(ステップ303)：上記システム初期時の設定が終了後、上位アプリケーションは署名生成に用いる鍵対の生成処理を秘密鍵制御部100に対して鍵名称を指定して依頼する。本実施例では、上位アプリケーション400が「KeyA」の鍵名称に対応する鍵の生成を依頼したものとして説明する。

【0043】(2) 署名エンジンアクセス依頼受付処理(ステップ304)：上位アプリケーション400から署名エンジンに対する鍵対生成の依頼を受理し、生成依頼対象が鍵名称「KeyA」であることを認識する。

15

上位アプリケーション400からの依頼の受理は、例えば、データ通信機能を用いて実現可能であり、依頼内容を解析し、鍵名称情報を取得することは、例えば、データ解析機能を用いて実現可能である。

【0044】(3) 秘密鍵情報参照処理(ステップ305)：上位アプリケーション400から指定された「Key A」に対応する鍵対の生成に必要な情報を取得するため、秘密鍵管理テーブル150のファイルにアクセスし、「Key A」に対応する情報として、署名エンジン種別が「署名エンジンA」であり、鍵格納場所が「#3」であり、署名アルゴリズムが「ESIGN」であり、鍵パラメータとして秘密鍵の鍵長が「40バイト」であることの情報を取得する。秘密鍵管理テーブル150のファイルへのアクセスは、例えば、ファイルアクセス機能を用いて実現可能であり、「Key A」に対応する情報の取得は、例えば、データ検索機能を用いて実現可能である。

【0045】(4) 署名エンジンへの鍵対生成依頼処理(ステップ306)：署名エンジンへ鍵対生成処理を依頼するため、まず、初期時に設定した署名エンジン依存情報テーブル161から署名エンジン種別である「署名エンジンA」に対応するアクセスモジュール種別である「アクセスモジュールA」の情報を取得する。その後、この「アクセスモジュールA」を介して、(3)で取得した鍵格納場所「#3」、署名アルゴリズム「ESIGN」、鍵パラメータ情報「秘密鍵長=40バイト」の情報を「署名エンジンA」に対して送付し、鍵対生成を依頼する。署名エンジン依存情報テーブル161からのアクセスモジュール種別情報の取得は、例えば、データ検索機能を用いて実現可能であり、アクセスモジュールへの入力データの生成は、例えば、データ組み立て機能を用いて実現可能である。また、署名エンジンへの鍵対生成依頼データの送付は、例えば、データ通信機能を用いて実現される。

【0046】(5) 鍵対生成処理(ステップ307)：(4)の依頼に基づき、「署名エンジンA」200では、「ESIGN」に適用花王で、「秘密鍵の鍵長が40バイト」の鍵対の生成を行い、そこで生成された秘密鍵が「#3」に格納される。以上の処理により、署名生成に用いる秘密鍵管理情報の設定及び、それに基づく秘密鍵の生成を、上位アプリケーション400が署名エンジン種別や署名アルゴリズムなどを意識することなく実行することが可能となる。

【0047】3. 署名生成処理時

続いて本発明における署名生成処理の例を説明する。図10は、本発明の一実施例の署名生成処理を説明するための図である。

(1) 上位アプリケーション400による署名生成依頼(ステップ401)：上位アプリケーション400は、署名生成の必要が発生した際に、秘密鍵制御部100

16

0に対して署名対象となるデータと署名に用いる秘密鍵の鍵名称を指定して署名生成依頼を行う。本実施例では、上位アプリケーション400が署名生成に用いる秘密鍵として「Key A」の鍵名称に対応する秘密鍵を指定して署名生成依頼を行ったものとして説明する。

【0048】(2) 署名生成依頼受付処理(ステップ402)：上位アプリケーション400から署名エンジンに対する署名生成の依頼を受理し、署名対象データと署名に用いる秘密鍵の鍵名称情報が「Key A」であることを認識する。上位アプリケーション400からの依頼の受理は、例えば、データ通信機能を用いて実現可能であり、依頼内容を解析し、鍵名称情報を取得することは、例えば、データ解析機能を用いて実現可能である。

【0049】(3) 秘密鍵情報参照処理(ステップ403)：上位アプリケーション400から指定された「Key A」に対応する鍵対の生成に必要な情報を取得するため、秘密鍵管理テーブルのファイルにアクセスし、「Key A」に対応する情報として、署名エンジン種別が、「署名エンジンA」であり、鍵格納場所が「#3」であり、署名アルゴリズムが「ESIGN」であり、ハッシュアルゴリズムが「SHA-1」であることを情報を取得する。秘密鍵管理テーブル150のファイルへのアクセスは、例えば、ファイルアクセス機能を用いて、実現可能であり、「Key A」に対応する情報の取得は、例えばデータ検索機能を用いて実現可能である。

【0050】(4) 署名エンジンへの署名生成依頼処理(ステップ404)：署名エンジンへ署名生成処理を依頼するため、まず、システム初期時に設定した署名エンジン依存情報テーブル161から署名エンジン種別である「署名エンジンA」に対応するアクセスモジュール種別である「アクセスモジュールA」と、入力データのハッシュ化の要否情報である「否」の情報を取得する。入力データのハッシュ化の要否が「否」であることを確認し、これにより入力データのハッシュ化処理は行わず、「アクセスモジュールA」を介して、(3)で取得した鍵格納場所「#3」、署名アルゴリズム「ESIGN」、ハッシュアルゴリズム「SHA-1」の情報と、署名対象データを「署名エンジンA」に対して送付し、署名生成を依頼する。署名エンジン依存情報テーブル161からのアクセスモジュール種別情報及び入力データのハッシュ化要否情報の取得は、例えば、データ検索機能を用いて実現可能であり、入力データのハッシュ化処理の要否判断は、例えば、データ解析機能を用いて実現可能であり、アクセスモジュールへの入力データの生成は、例えばデータ組み立て機能を用いて実現可能であり、署名エンジンへの鍵対生成依頼データの送付は、例えば、データ通信機能を用いて実現される。また、入力データのハッシュ化の要否が「要」であった場合には、

例えば、ソフトウェアで実現されているハッシュ化機能

を用いてハッシュ処理を行うことが可能である。

【0051】(5) 署名生成処理(ステップ40)

5) : (4) の依頼に基づき、「署名エンジンA」200では、署名対象データを指定したハッシュアルゴリズムである「SHA-1」によりハッシュ化し、これに対して「#3」に格納されている秘密鍵を用いて「ESIGN」署名アルゴリズムにより暗号化し、署名が生成される。

【0052】以上の処理により、上位アプリケーションが署名生成処理を署名エンジンに依頼する際に、鍵名称及び署名対象データを秘密鍵管理テーブル150に対して指定するだけで、任意の署名エンジンに対して署名生成の依頼が可能になる。また、上記の実施例は、図3の構成に基づいて説明したが、秘密鍵管理テーブル作成部110、署名エンジンアクセス依頼受付部120、署名エンジン依存情報登録部130、秘密鍵情報参照部140、署名エンジンアクセス制御部160を有する秘密鍵制御部100をプログラムとして構築し、秘密鍵制御部として利用されるコンピュータに接続されるディスク装置や、フロッピーディスク、CD-ROM等の可搬記憶媒体に格納しておき、本発明を実施する際にインストールすることにより、容易に本発明を実現できる。

【0053】なお、本発明は、上記の実施例に限定されることなく、特許請求の範囲内において、種々変更・応用が可能である。

【0054】

【発明の効果】上述のように、本発明によれば、上位アプリケーションは署名生成のためにアクセスする署名エンジンの種別、秘密鍵の格納場所、署名アルゴリズムなどを意識することなく、鍵名称と署名対象データのみという統一的なインターフェースにより、任意の署名エンジンに対して電子署名の生成を依頼することが可能となるため、複数の署名エンジン及び複数の署名アルゴリズムを容易に使い分けることが可能となることはもちろん、既存システムへの新たな署名エンジンの追加や新たな署名アルゴリズムの追加の際にも、上位のアプリケーションに影響を与えることなく、容易に追加を行うことができる。

【図面の簡単な説明】

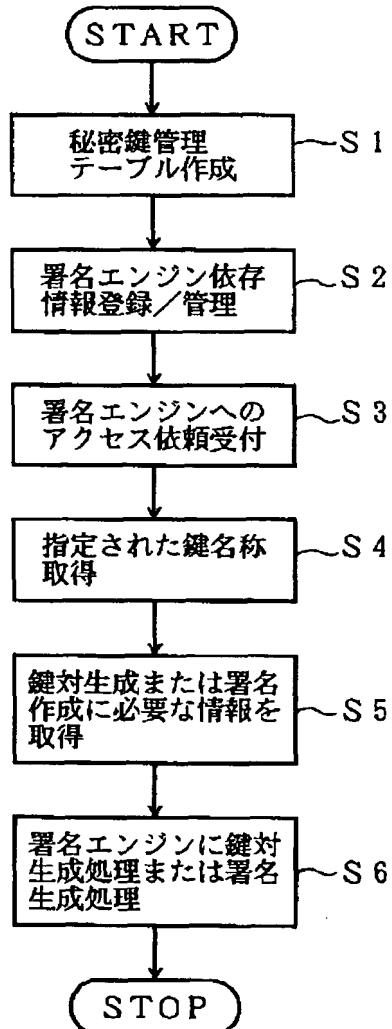
【図1】本発明の原理を説明するための図である。

【図2】本発明の原理構成図である。

【図3】本発明におけるアクセスシステムの構成図である。

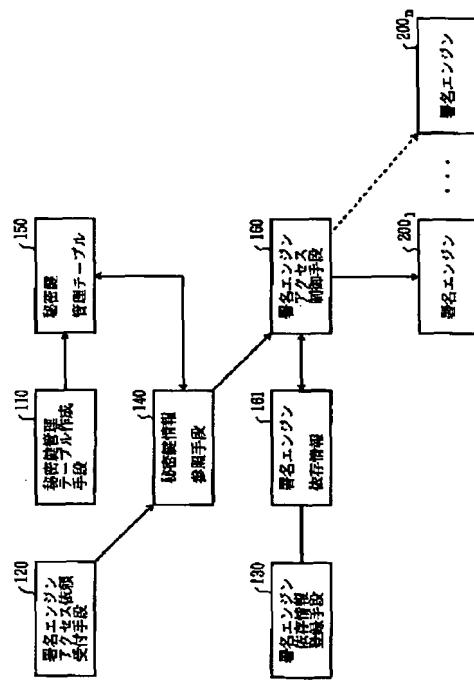
【図1】

本発明の原理を説明するための図



【図2】

本発明の原理構成図



【図9】

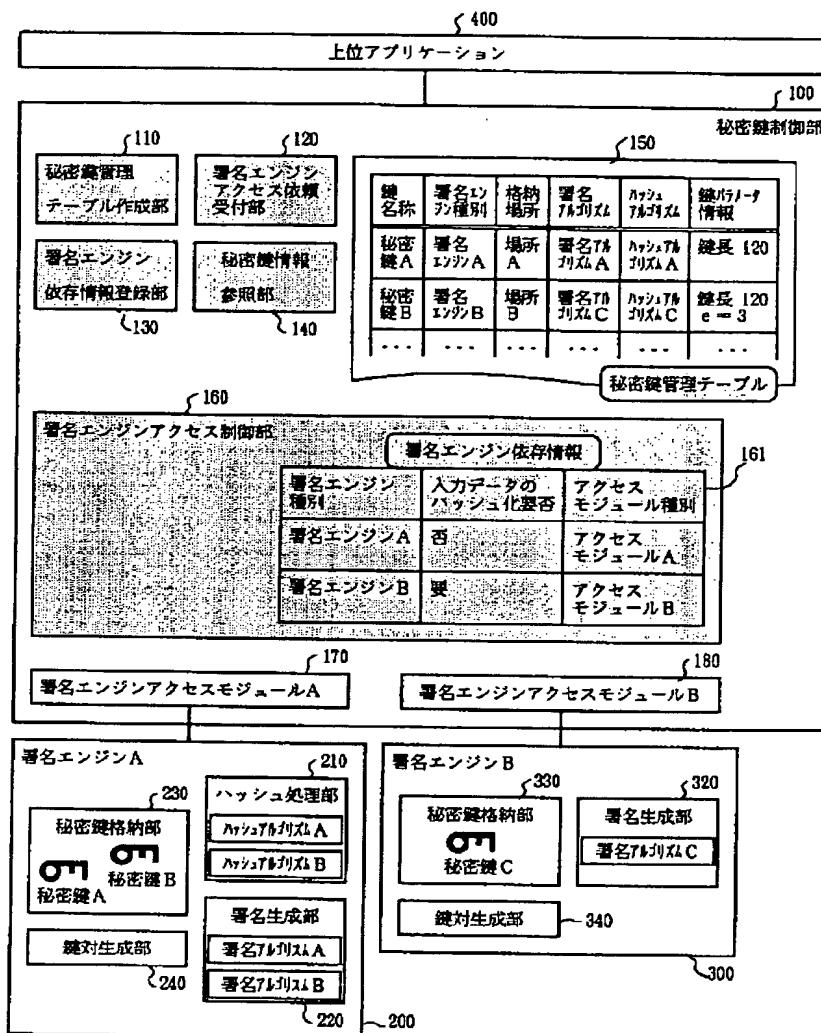
本発明の一実施例の署名エンジン依存情報の設定例

Table 1.8.1: Example of setting the dependency information of the signature engine (Figure 9).

署名エンジン種別	入力データ化要否	アクセスモジュール選別
署名エンジンA	否	アクセスモジュールA
署名エンジンB	要	アクセスモジュールB
署名エンジンC		
署名エンジンD		
署名エンジンE		
署名エンジンF		
署名エンジンG		
署名エンジンH		
署名エンジンI		
署名エンジンJ		
署名エンジンK		
署名エンジンL		
署名エンジンM		
署名エンジンN		
署名エンジンO		
署名エンジンP		
署名エンジンQ		
署名エンジンR		
署名エンジンS		
署名エンジンT		
署名エンジンU		
署名エンジンV		
署名エンジンW		
署名エンジンX		
署名エンジンY		
署名エンジンZ		

【図3】

本発明におけるアクセスシステム構成図



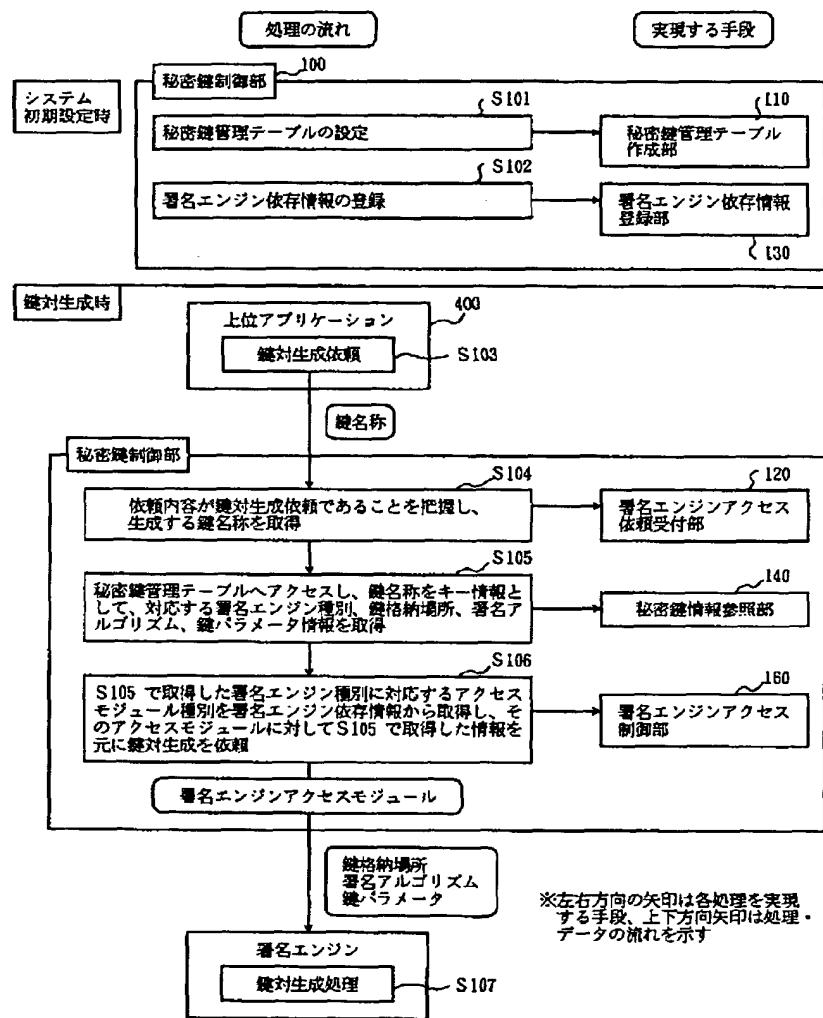
【図5】

本発明の秘密鍵管理テーブルの例

鍵名	署名エンジン種別	格納場所	署名アルゴリズム	ハッシュアルゴリズム	ビメータ情報
密鑑A	署名エンジンA	場所A	署名アルゴリズムA	ハッシュアルゴリズムA	鍵長 120
密鑑B	署名エンジンB	場所B	署名アルゴリズムC	ハッシュアルゴリズムC	鍵長 120 e = 3
...

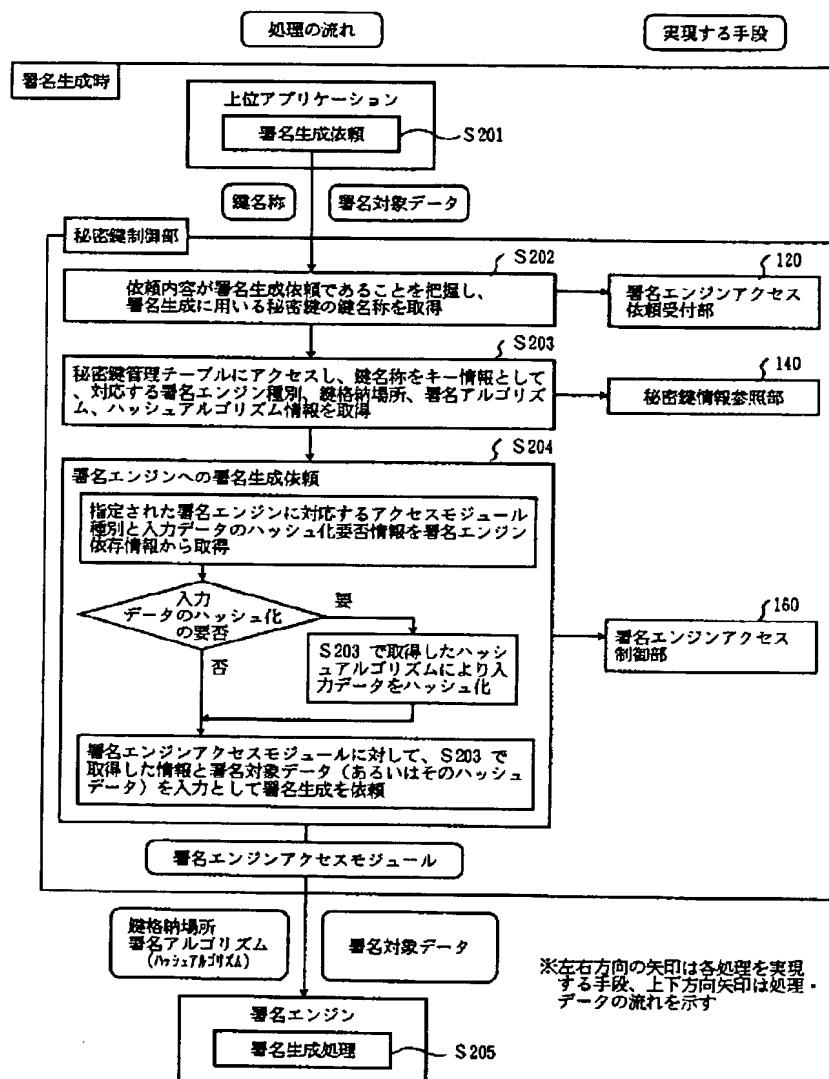
【図4】

本発明における鍵対生成時の処理の流れを説明するための図



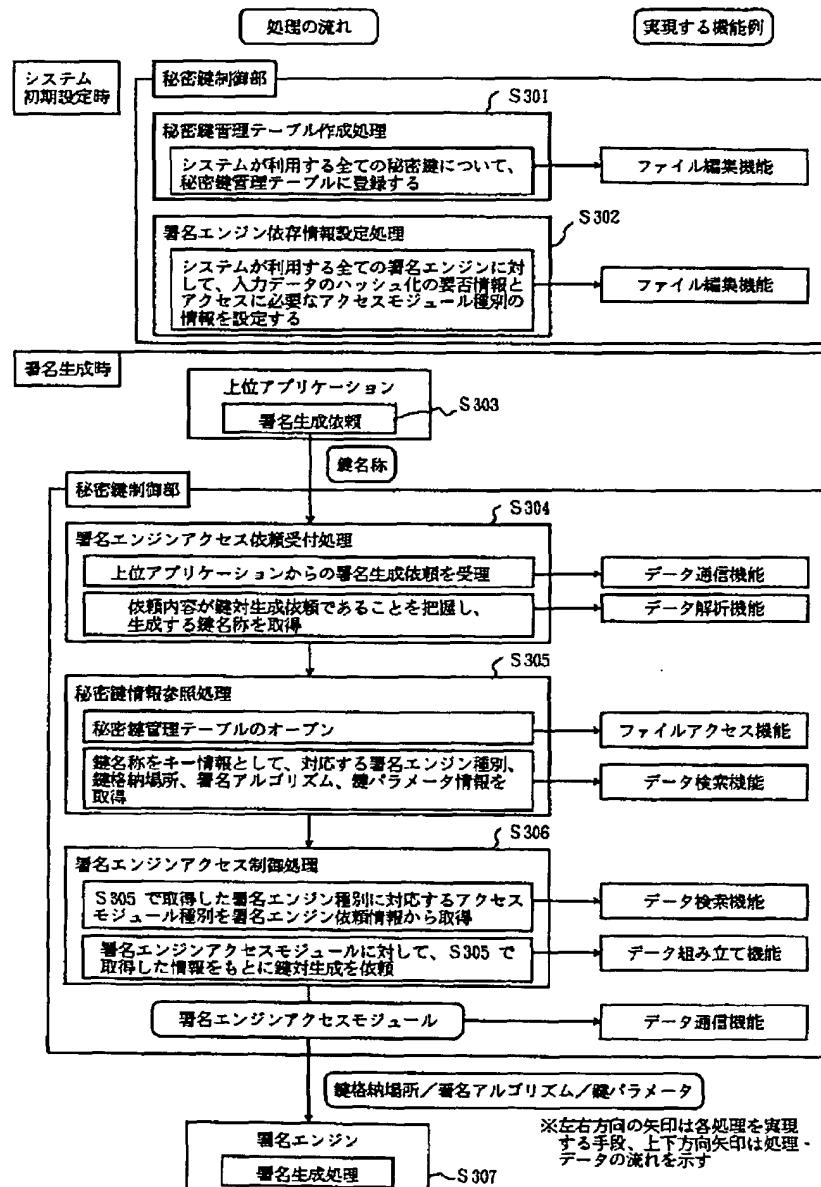
【图6】

本発明における署名生成処理の流れを説明するための図



〔四七〕

本発明の一実施例の署名生成のための事前処理を説明するための図



【図8】

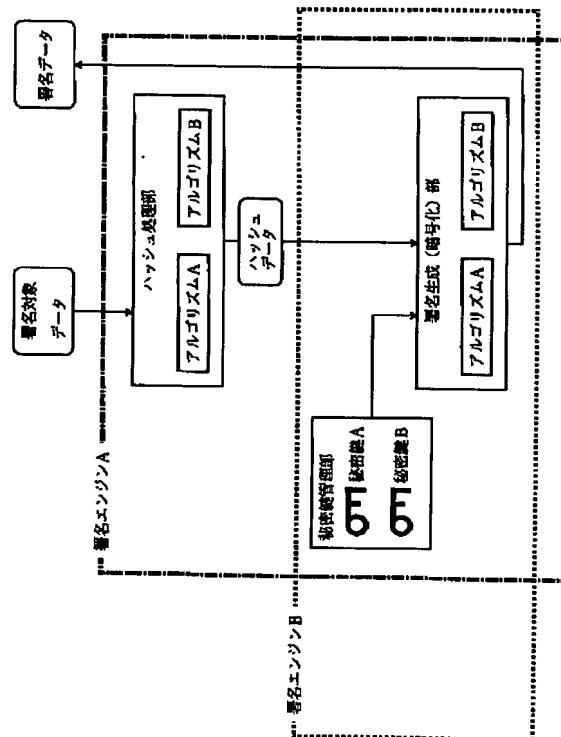
本発明の一実施例の秘密鍵管理テーブルの設定例

150

鍵名	署名エンジン	格納場所	署名アルゴリズム	ハッシュアルゴリズム	暗号化アルゴリズム
KeyA	署名エンジンA	#3	RSIGN	SHA-1	暗号120
KeyB	署名エンジンB	/key/keyB.dat	RSA	MD5	暗号128

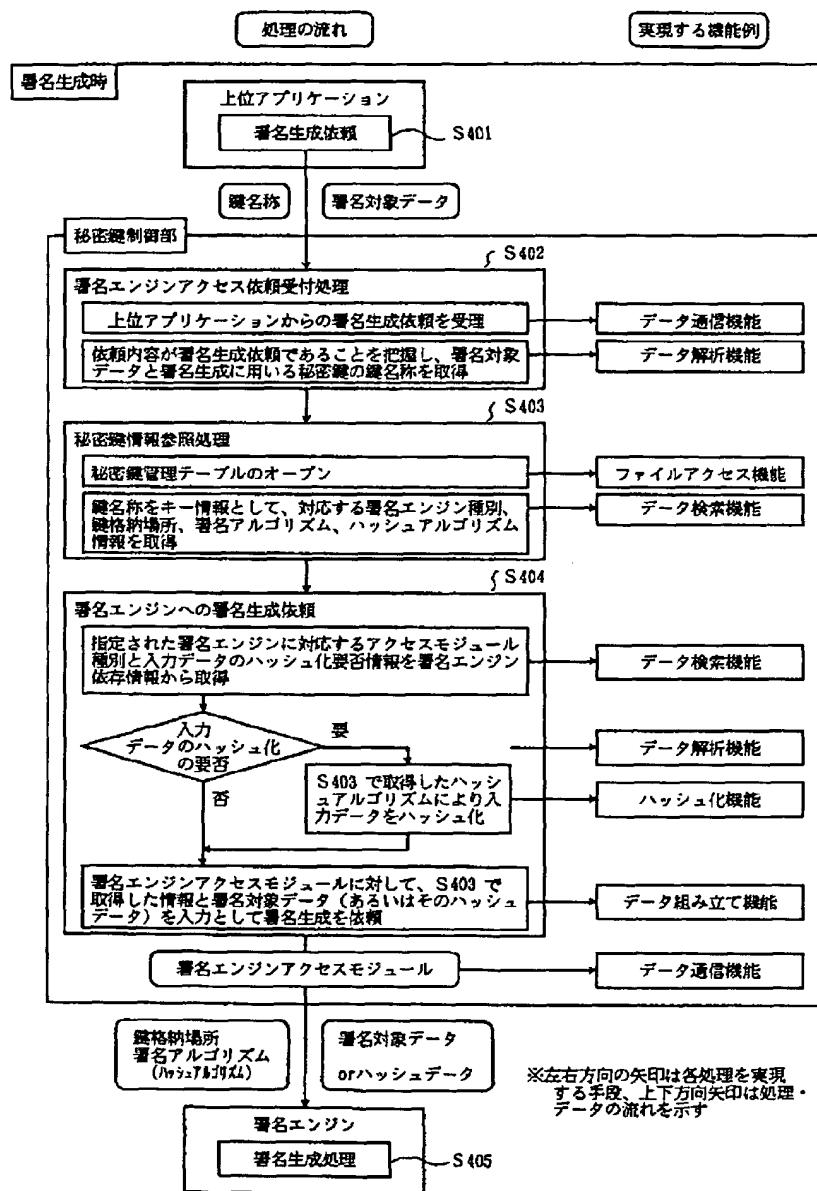
【図11】

電子署名生成の流れと署名エンジンの構成図



[図 10]

本発明の一実施例の署名生成処理を説明するための図



【図12】

従来の署名エンジンへの署名生成依頼処理の流れを説明するための図

